

「来たらどうする、南海地震」

本年度は地域社会にむけて、ロータリークラブは何かしているぞ、面白いことをしているぞ。というような一度、外にアピールするような活動をしてみよう！メンバ - 全員参加型のイベントをしよう。このような会長発の活動をご報告します。

平成 20 年 2 月 2 日。泉佐野ロータリークラブは地域の安全、安心を強く意識し、近未来というより、ここ数十年、あるいはもっと早くに起こるかもしれない「南海地震」について最新の知識を得、みんなで考え、討議し、大災害によりよく対処、対応できる地域社会の構築を目指して今回「来たらどうする、南海地震」シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは地元 3 市町の後援はもとより、大阪府、総務省消防庁、また関係各団体の皆様のご協力を得、泉佐野防災協会の協力を得、節分前日の寒い中、予想を越える地域の皆様の参加を頂きました。

会場になった泉の森小ホールでの基調講演は京都大学総長の尾池和夫先生が「地震を知って震災に備える」をテーマに地震のメカニズムを解りやすくお話しされ、必ず起こる大地震に対する備えの重要性を我々に再認識させました。続いて“兵庫県 人と防災未来センター”語り部 谷川 三郎 氏が阪神・淡路大震災 ~ その体験を語る ~ というテーマで、あの 1 1 7 の実体験をもとに訥々と話された内容は多くの聴衆の涙を誘い、「来たらどうする」どうすべきかという点で、色々な意味で、色々な場面で、深い示唆を与えたようでした。

同時に開催された、地震関連情報展示、救急蘇生 (AED) の使い方、人口呼吸法は 4 時間で 216 人、起震車による地震体験コーナーは子供さんを中心に 276 人の皆様に来場願え、大きな成果をあげました。